

「夢をかなえるために」

1年 鎌田 玄

「この不思議なソウが何をやるんだろう。」表紙に描かれている「たばこを持ちぼってりとした腹をさすっているソウ」が気になってこの本を読むことにした。

この本にはソウの神様ガネーシャと主人公の二人が登場する。主人公の男は平凡なサラリーマン、ある日、彼は雑誌やテレビで取材されているようなパーティに行くことになり、今まで足も踏み入れたことのない華やかな世界を見ることになる。酔っ払って帰ってきた彼は、ソウの置き物の前で「人生を変えたい」と号泣したのだ。ソウの置き物とは、彼がインドに旅行したときになんとなく買ってきたものだが、次の朝、そこからガネーシャが現れ、突然話し出すのだ。

主人公はガネーシャ式で自分の人生を変えるために、ガネーシャと契約書を結ぶことにする。そして、ガネーシャは主人公に毎日一つの課題を出し、主人公を成功の道へと導いていくのだ。

ガネーシャの言葉はどれも奥が深い、中でも僕が心に残ったものを二つ紹介する。

一つ目は「自分から世の中に働きかけるべきであって、自分の周囲に『反応』しているだけではだめだ。」という言葉だ。

そして、「自由だから遊んでいいわけではない。自分が成功していくために自由に使える『一番貴重な時間』を有効に使い。」と続けるのだ。僕はこの言葉を聞いてドキッとした。まるで、自分が言われているかのように思えたからだ。

僕は、学校から帰宅するとソファでのんびりしてしまい、気がつくとも時間が過ぎていく。親に「そろそろ勉強しなさい」「お風呂に入りなさい。」「早く寝なさい。」と怒られなければ行動できない。これでは、まさに周囲に「反応」しているだけである。「一番貴重な時間」をむだにしているだけだ。これでは、自分もこの主人公と同じで、考えて行動できない人間になってしまうのではないかと焦る。

中学校は、勉強に部活と想像していた以上に大変で毎日くたくただ。家に帰ってゆっくりしたくとも、夕食・お風呂・明日の準備や宿題など、やらなければならないことだらけ。でも、条件はみんな一緒にクラスメイトも皆同じことをしている。その中で、貴重な時間をどれだけ有効に使えるのかを、親に言われて行動するの

ではなく、自分自身で考え、計画的に行動しなくてはいけないのだ。

もう一つ心に残った言葉は「もし、自分が変われるとしたら、行動して経験したときだ」という言葉だ。この言葉で、僕は部活のことが頭をよぎった。僕は柔道部員。この夏、地区大会で優勝し、初めて全県大会に挑んだ。試合直前まで頭の中で「こういう動きをしてこの技をかけよう。とか「こうきたら、こう対応しよう。」とイメージしていた。ところが、いざ始まると緊張でなかなか思い通りに体が動かず、先に「技あり」をとられ、そのまま負けてしまった。自分の力を出し切れず、悔しい思いだけが残った。まだまだ練習不足。経験が足りない。「人に教えてもらったことを学んで成長したつもりでいても、本当は成長した気になっているだけで何も変わらない」とガネーシャは言っている。まさにその通りだ。

この負けた経験を生かして変わらなければならない。今の自分を超えられるように、もっと練習をし続けなければと思った。積極的に練習相手に向かい、たくさんの経験を積み、自分で考え、計画を立てて取り組むこと、それが次の大会につながるのだ。

主人公は自分の将来の夢もはっきりもたず、楽しんで人生を変え、楽しんで成功したいと思っていた人だった。だが、ガネーシャから出された毎日の課題に取り組むうちに、その教えを理解し、自分の行動や考え方を改めるようになり、みんなのためになるような大きな夢を持つようになった。

僕もこの本を読む前は、主人公と同じように毎日をなんとなく過ごしていた。けれども、ガネーシャと出会って、日々の時間こそが大切であって、自分で考えて自分から行動しなければならないこと、よい生活習慣の積み重ねが大事なのだということなど、たくさん学ぶことがあった。

僕の目標は、柔道の全国大会で優勝することだ。そのためにガネーシャから教わったことを生かして努力していきたい。

ガネーシャは最後に「無理すぎんなや。」「世界を楽しんでや。心ゆくまで。」と言っている。この言葉には、成功だけが人生ではないし、辛いことも苦しいこともたくさんある。けれどもそれさえも楽しんで人生を送ってほしいという思いが込められているのだと思う。僕も目標を見失わず、毎日の学校生活や部活動を存分に楽しんで味わいたい。そして、ガネーシャが僕のところにいつ遊びに来てもいいように、冷蔵庫にガネーシャの好物のあんみつを用意しておこう。

2学期「ファインプレー賞（しののめ賞）」

今年度2学期の『ファインプレー賞』（しののめ賞）が決定しました。この賞は、日常の学校生活において、顕著な頑張りが見られた生徒（各学級から1名）に贈られるもので、終業式後に次の6名を表彰しました。受賞者には賞状と副賞を贈呈しました。おめでとうございます！

ファインプレー賞（しののめ賞）受賞者一覧

1年A組	金谷 颯希さん	1年BD組	鎌田 玄さん
2年A組	佐々木勇真さん	2年BE組	松嶋 慶次さん
3年A組	伊藤菜々心さん	3年B組	水木 彩寧さん

<副賞>

秋田の銘菓、長栄堂の「東雲羊羹（ようかん）」